



株式会社東芝 横浜事業所 生産技術センター サイトレポート情報	
所在地	横浜市磯子区新磯子町33番地
敷地面積	38,272 m ² 、延床面積：50,104 m ² 、緑化率 16.1 %
設立	1970年4月、従業員：566人（2014年3月現在）
主要製品	生産技術に関する研究開発及び設備開発ならびに 建築物等に関する企画、設計、監理ならびに技術指導
ISO14001認証取得	1997年2月、最新更新年月：2013年7月 (ISO認証番号：EC97J1072)



ごあいさつ

東芝生産技術センターは、東芝グループのモノづくりのセンターとして、「モノづくりに関する技術・仕組みの研究開発」、「モノづくりのあるべき姿の発信」、「技術・仕組みのタイムリーな提供」をミッションとしています。そして、「“かけがえのない地球環境”を健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、東芝グループ環境ビジョンのもと、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献します。



環境保全責任者 森 郁夫

2013年度の環境の主な取組み

- ☆環境調和型生産技術の創造と東芝グループへの成果発信
成果発信：生産技術フェア開催(開催日:11/14, 15 来場者数:2,049名)、ホームページ2件
- ☆ISO14001環境マネジメントシステム
1997年4月に認証取得、2011年7月に横浜事業所と統合認証後、認証継続中。
- ☆CO2排出量の削減
エネルギー起源のCO2排出量を計画値5,872 t-CO2/年に対し5,388.9 t-CO2/年で91.8%に抑制。
- ☆廃棄物ゼロエミッションの継続
2001年度に最終処分率0.5%を達成し、以後ゼロエミッション継続中。2013年度は、0.116%。
- ☆全員参加・啓発活動の展開
環境月間・3R推進月間・省エネルギー月間による環境啓発活動。
- ☆地域との協調
地域への各種環境行事の参加、清掃ボランティア等。

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

多種多様な東芝グループ製品のモノづくりを進化させるため、8つのコアとなる技術の研究開発に取り組んでいます。

- ◆生産エンジニアリング技術
グローバル生産コントロール、現場管理、生産シミュレーション…
- ◆生産情報システム技術
生産制御・生産管理システム、統計的品質制御・QCシステム…
- ◆薄膜プロセス技術
プロセス・分析・シミュレーション、新規デバイス開発とプロセス応用…
- ◆高密度実装技術
実装設計・信頼性評価技術、半導体パッケージ・モジュール技術…
- ◆光技術
光学設計、リソグラフィ、レーザ、検査・画像処理技術…
- ◆構造設計・製造技術
部品製造プロセス開発、数値解析(シミュレーション)・評価技術…
- ◆制御技術
モーター・アクチュエータ、インバータ・制御ユニット開発、EMC設計…
- ◆メカトロニクス技術
メカトロ要素開発、機構・制御技術…

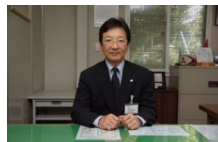
駐在部門である人事・総務部ファシリティマネジメント担当とともに環境に配慮した研究、技術開発を推進しています。

2014年度 (株)東芝 横浜事業所 環境方針

横浜事業所は、原子力事業に関わるエンジニアリング部門・技術開発部門、並びに、材料・部品・電子デバイスの設計・製造部門、最先端の生産技術の研究開発部門、建築設計部門、ストレージデバイス機器の研究開発部門、**燃料電池関連の設計・製造部門**を有する多様な事業環境の集合体です。当事業所は、この事業環境、及び東京湾に面した立地環境を踏まえて環境保全を経営の最重要課題の一つと位置付け、環境に配慮した研究開発並びに製品作りを行い、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指して、持続可能な社会の実現に貢献すると共に、より良い地球環境を創造します。

1. 当事業所の事業活動、研究開発、製品、建築設計及びサービスにかかわる環境側面について、生物多様性を含む環境影響を評価し、環境保全活動の実績を踏まえて技術的・経済的に可能な環境目的・環境目標を設定及び定期的な見直しを行い、環境マネジメントシステムとその環境パフォーマンスの継続的改善に全員で取り組みます。
2. 環境保全に関する法令、環境保全協定、東芝グループ第5次環境アクションプラン、当事業所が受入に同意した企業行動指針、顧客要求事項、その他の要求事項を順守すると共に、自主管理基準を設けて環境保全のレベル向上を推進します。
3. 事業活動が環境に及ぼす負荷を低減及び汚染を予防するため、次の活動を推進します。
 - 1) 高効率機器の導入、工場・事業場判断基準の順守などによるエネルギー使用の効率化及びCO₂排出量の抑制
 - 2) 廃棄物総発生量の抑制及び廃棄物ゼロエミッションの継続
 - 3) 化学物質の管理徹底及び排出量の削減
4. 本来業務における環境配慮活動を積極的に推進します。
 - 1) 研究開発及びエンジニアリング業務における環境配慮
 - 2) 環境調和型製品の開発、提供
 - 3) 環境調和型生産技術の研究開発、建設設計のサービスの提供
 - 4) スタッフ及びサービス業務における環境配慮
 - 5) グリーン調達の推進
5. 東京湾閉鎖性海域に隣接した立地環境を認識し排水管理を充実させると共に、**構内の緑化管理も含め**生物多様性の保全を考慮して、地域社会と密着した環境コミュニケーションを継続的に行ない、地域への貢献と協調を図ります。
6. 環境への取組状況を環境報告書等を通じて積極的に公開します。
7. 所内全従業員は環境教育などを通して、環境方針の理解と環境保全に対する意識を向上し、行動を実践すると共に、環境管理の先導者の自覚を持って、その家族の啓発活動を行います。

～ この環境方針は社内外に公開します ～



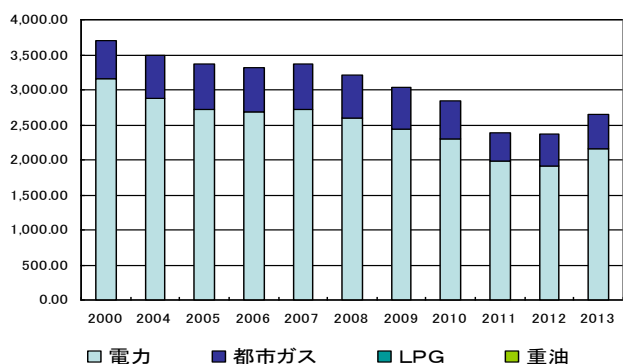
(株)東芝 横浜事業所
環境保全責任者

改定 2014-04-01

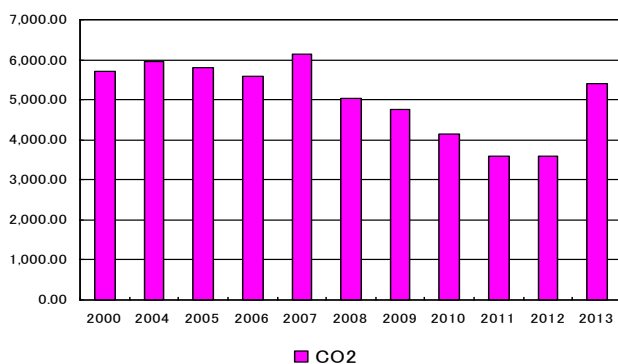
小林 薫平

環境負荷データ

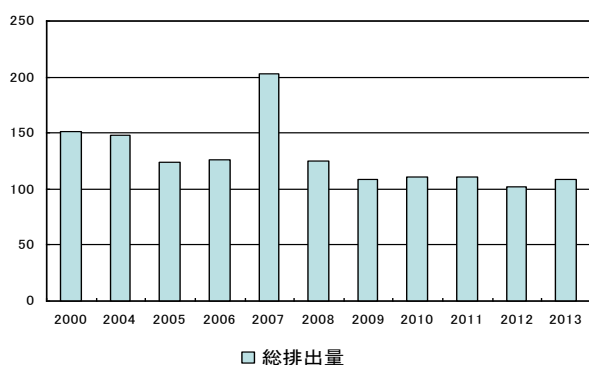
エネルギー使用量(単位:KL)



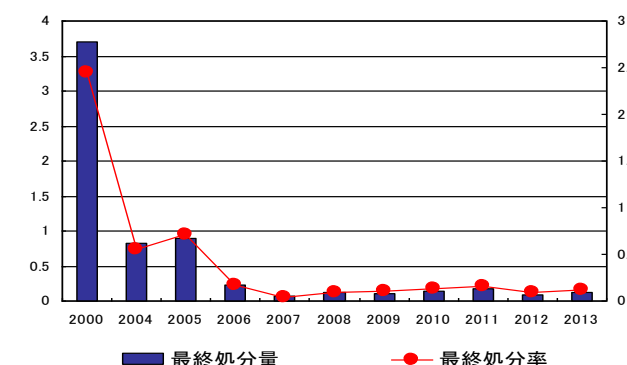
CO₂排出量(単位:トン-CO₂)



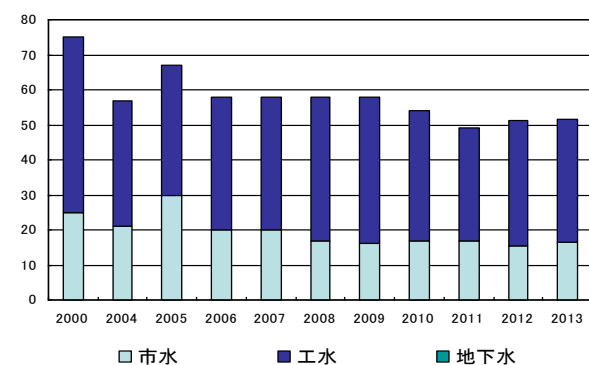
廃棄物総発生量(単位:トン)



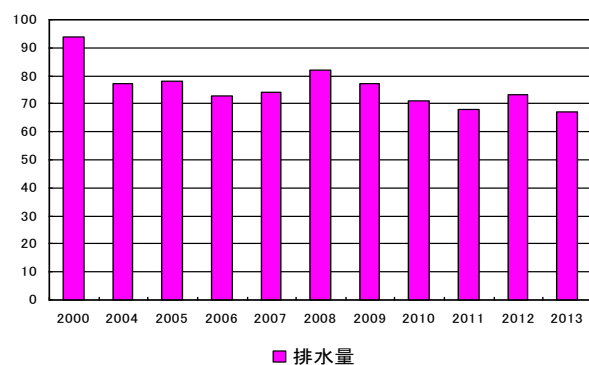
廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)



水の使用量(単位:千m³)



排水量(単位:千m³)



化学物質削減対象物質の取扱量(トン)

非該当

化学物質削減対象物質の排出量(トン)

非該当

遵法管理状況

<大気測定結果> 多管式小型貫流ボイラー(都市ガス使用) 3台

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	45	44	25~42	年2回
SOx(Nm3/h)	対象外	対象外	対象外	対象外
ばいじん(mg/Nm3)	対象外	対象外	対象外	対象外

<排水測定結果> 最終排水口、東京湾へ放流

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	6.0~8.4(協定値)	6.5~8.3	7.3~7.9	月1回および連続
BOD(mg/ℓ)	25(協定値)	15	~4	月1回
COD(mg/ℓ)	25(協定値)	15	~7	月1回
SS(mg/ℓ)	20(協定値)	10	~3	月1回
窒素(mg/ℓ)	25(協定値)	20	~10	月1回および連続
フッ素(mg/ℓ)	10(協定値)	5	~0.7	月1回

<騒音・振動測定結果> (特定施設なし、工業専用地域にて法規制対象外、自主管理として昼間騒音・振動を測定)

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	75(市条例値)	74	48.3~68.2	年2回
	敷地境界:夜	—	—	—	—
振動(dB)	敷地境界:昼	70(市条例値)	59	30.5~42.9	年2回
	敷地境界:夜	—	—	—	—

<その他測定結果> (下水道法:非該当)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	—	—	—	—
BOD(mg/ℓ)	—	—	—	—
SS(mg/ℓ)	—	—	—	—

<環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし

環境コミュニケーションの紹介

<地域行政と地域住民とのコミュニケーション>

毎年、磯子区役所と共催で環境映画上映会の開催(6月)や磯子区役所主催のいそごどもエコフェスタ(12月)に出展し地域との交流を深める活動を実施しており、子どもから大人まで好評を得ています。身近な環境保全の取り組みについて学習したり、生産技術センターで開発された技術が利用されているLED電球をはじめ、エコグッズが当たる抽選会を実施する等で行政や住民とのコミュニケーションを行っています。

(実施概要)

- ・DVD放映会 日時:2013年 6月22日
区民参加人数: 86名
- ・いそごどもエコフェスタ 日時:2013年12月14日
区民参加人数:650名



環境映画上映会



いそごどもエコフェスタ

<所外清掃活動>

当センターのスタッフ部門では毎月1回、事業場周辺の道路の清掃を実施しています。この活動を横浜市が実施している「ハマロード・サポーター*」制度に登録しています。環境月間の6月には、全部門へ参加を呼び掛け、センター全体での活動も行っています。

この活動は今後も継続していきます。

(実施概要)

- ・活動期間:2008年3月に登録し、毎月継続中
- ・参加部門:総務、経理、調達、施設管理のスタッフ部門(毎月)
- ・参加人員:延べ185名(年間回収量31kg)

*ハマロード・サポーター:横浜市が主催する身近な道路の清掃や美化活動等を行うボランティア制度



参加者集合写真



清掃風景

<環境標語募集・表彰>

環境月間行事の一環として、全部門から環境標語を募り、優秀標語3件を厳選し、(CMC)地球環境会議で表彰を行いました。最優秀作品については1年間、正門の環境コーナーへの掲示や会議資料等に利用しています。

(実施概要)

- ・対象者:生産技術センター従業員
- ・募集期間:2013年5月7日-5月24日
- ・応募総数:506件



表彰式

生物多様性の保全への取り組み

<生産技術センター生物多様性保全活動>

1. 生産技術センター敷地内の専門家による調査
 - ①鶴見川流域ネットワークの専門家の協力により構内全域を調査を行い、この地に適したビオトープづくりのための植物を選定、アドバイスを受けました(調査日:2012年4月)。
 - ②調査の結果を受け、蝶(空中移動性のいきもの)の呼び込みの為、スマレを植える計画としました。
(呼び込む蝶:ツマグロヒョウモン)
2. 生産技術センターのビオトープ
蝶を呼び込むスマレの栽培を東芝テリー(株)の敷地内に自生しているスマレを株分けして頂き、2013年7月に移植を行い栽培を開始しています。



スマレ移植



スマレ栽培状況



スマレ



ツマグロヒョウモン



ツマグロヒョウモン幼虫